

昔は珍獣、今は害獣

自治会恒例、公民館での新年会の席で。

惣吉：まあ1杯。ぐーっとやんなよ。

寅次：おう、わるいね。惣やんもどうだい。

惣吉：うんまい酒だね、これは。

寅次：知ってっけ？あの天井のシミ。

惣吉：あれれ、だーいぶ黒くなってんなや。

寅次：何とかつつうネコみでな動物がいたんだとよ。大掃除んときさ見つけて追っ払ったつつう話だわ。

惣吉：そういや博やんげの納屋にも何だか動物が巣くって、えんがみちった*つつう話だな。

*えんがみちった：ひどい目にあった

鳥
獣
新
聞

第8号
ざくざく霜柱号

その名はハクビシン(白鼻芯)



昔、栃木県にハクビシンは生息していませんでした。昭和50年代くらいから徐々に見つかるようになりましたが、当時は珍獣として新聞記事になるくらいでした。

しかし、その後の20年間で急速に分布を拡大し、今や住宅地から農耕地、はては奥日光まで、ほぼ全県にわたって生息していることが確認されています。分布の拡大に伴い、様々な問題が発生しています。



ハクビシンの特徴

見かけによらず凶暴

見た目はかわいいのですが、人間が近づくと激しく威嚇します。むやみに手を出すと、咬みつかれる場合もあります。

複数のねぐらを持ち、行動は夜行性

木登りが得意で、樹洞や人家の屋根裏、倉庫などに複数のねぐらを持っています。昼間は休み、夜間に行動します。

1年に1回繁殖

1年に1回、2~3頭を出産します。出産の時期はまちまちですが、夏から秋にかけてが多い傾向です。

雑食性だが果実が好物

果実や野菜、昆虫、鳥の卵など様々なものを食べますが、特に果実が好物です。



ハクビシンの被害と対策

①農業被害

木登りが得意なので、モモやブドウ、ナシなどに被害が発生しています。このほか、トウモロコシやイチゴにも被害があります。網などは登ってしまうため、電気を利用した防護柵や畑を全部覆うなどの対策が必要です。



トウモロコシの食害。茎を倒さずに食べるのが特徴

②生活被害

民家の屋根裏や床下、納屋などをねぐらとするため、糞尿によるシミや悪臭の被害が発生します。対策としては、侵入口をふさいだり、雨どいなどの侵入ルートを遮断することが考えられます。捕獲については許可が必要ですので、市町村役場に相談してください。

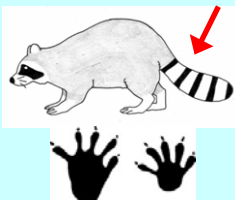


倉の屋根の隙間も侵入口に・・・

こやつにも注意！

～アライグマ～

やはり屋根裏などに侵入し、果実や野菜を食べます。ハクビシンとは尾の縞模様や足跡で区別できます。県内でも目撃例があり、情報収集中ですので、発見された方（死体も含む）は、下記編集部あてご連絡下さい。



↓ハクビシン



発行：鳥獣新聞編集部（栃木県自然環境課内）

TEL028-623-3261 FAX028-623-3212

ご意見、ご要望、情報などお待ちしております。

無断転写、複製、転送、公開、掲示、配布など大歓迎！

